

研究講習事業報告

学発番号：学19-033

事業名：チーム医療研究班 救急検査研修会

日時：令和元年11月19日（火） 18：30～20：00

場所：京都保健衛生専門学校 視聴覚室

演題1：当院の救急センターと検査科との協力体制 ～救急スタッフの立場から～

講師1：田村 泰介 氏（京都岡本記念病院 救急センター）

演題2：救急医療には検査技師が求められています
～そのスキル救急で活かしませんか～

講師2：藪 圭介 技師（枚方公済病院 検査科）

参加数：総数：30名（京臨技会員：26名）

報告者：青山 絹子（伏見岡本病院）

以下、講演内容など

演題1では、実際の救急室での映像を入れながら救急スタッフとコメディカルスタッフがどのような動きをしているか役割を果たしているのか紹介されました。緊急性と重症度があればあるほど多くのスタッフが一度に救急室に集まり混乱を招きかねませんが、ホワイトボードに指示系統や患者経過を記載しどのタイミングでチームに加わってもわかるように工夫されていました。どのスタッフも患者を助きたい思いで働いているのが伝わり検査技師もそのチーム加われればと思います。

講演2では、今後の救急医療は人口減少と共に高齢化が進み、高齢者の疾病を扱うケースが増える傾向にあります。どのようにコメディカルスタッフが救急室と関わっているのか、技師の技術が救急に役立つところをエコー症例を提示されたり、緊急度が検査室に伝わるよう検体に色マーク分けする工夫の紹介もありました。いつも検査室で行っている業務を救急室で行うこと、もう少し自信が持てるようになればやろうではなく今自分でできることをやる姿勢で臨めればと思います。まず自分の施設の救急が何を求めているのか聞き取り、検査科でできることは何か考え動くことで、少しずつ救急スタッフとの顔の見える関係ができればと思います。